

昌は石川主殿頭義孝に召預らる。

〔公裁秘録三〕亂心ニ而永牢之事

五月三日
一揚屋入永牢

亂心。

酒井隱岐守組
小普請蜂屋庄五郎

右庄五郎義預ケ押込可置親類無之由ニ候間揚リ屋江差置可被申候。

享保十三申七月

右御書付申七月廿二日左近將監殿方諏訪美濃守江御渡候。

〔半日閑話十五〕一同月四年文化十十三日松平甲斐守家來亂心致し麻布長谷寺へ參り庭内を荒せ

し故門番を出し尋し所惡口申拔身にて追かけしゆへ其儘右の次第を院主へ咄せしゆへ門前

の町家へ通じければ町家を大屋を初め十五六人階子齋口等を持參り押へんと致けれ共先に

拔身持居候故進み兼しが大や階子を持候て庭に押ふせし處階子の子を亂心者體出刀にて大

屋を突即座に大屋死失せ大屋の跡に居る者江も拔身の先當り是は少々手負けれ共其内に漸

々に取押へ奉行所へ訴へせしと也然るに翌日彼亂心者生氣に相成大きに悔みし由也其咄を

承るに一體盆前金子にても詰りしや十三日の晝麻布の質屋江參り金子調へしが思ふ程出來

不申夫々の發りにて長谷寺の住持に而も頼み申譯にても致さんとおもひ參りし所住持逢不

申ゆへ猶更狂亂と相成し由也懷中の金子三兩有之翌日右之金子を出し妻子方へ届吳可申段

頼みしよし也寺之あつかひとなりし也。

幽憂

〔續日本紀十二〕天_{聖武}平九年十二月丙寅是日皇太夫人藤原氏〇宮子娘就皇后宮〇宮子娘見僧正玄

叻法師天皇亦幸皇后宮皇太夫人爲沈幽憂久廢人事〇下

〔莊子讓六〕堯以天下讓許由許由不受又讓於子州支父子州支父曰以我爲天子猶之可也雖然我

適有幽憂之病方且治之未暇治天下也。